

# 【多解きの流れ】

※画像をクリックしたら Amazon に飛びます。

【STEP1】：『精選模試 1』を仕上げる(リトライ法→抽出)



【STEP2】：『精選模試 2』を仕上げる(リトライ法→抽出)



**【STEP3】：『精選模試 1』と『精選模試 2』（合計 10 模試）を、時間を測って解く**

※「3 回目(リトライ法で 2 回こなしている)」を解くということなので、なんとか時間内に全問解き切って、9 割は軽く超えるスコアを出したいところ。(ここで時間内に解き終わって、かつ 9 割以上のスコアが出る感覚をつかむ。)

→抽出したものをしっかりと覚えられているかどうかを試される。

**【STEP4】：「時間内に解き終わって、かつ 9 割以上のスコアが出る感覚」を常に意識しながら『YBM 超実戦模試』を 1 つずつ解いていく。**



※この頃には抽出すべき量がかなり減っているはずなので、リトライ法にこだわらず、「**時間制限ありで解く→間違えたところや知らない単語を抽出**」という流れで取り組む

## 【重要ポイント】

模試を解くことに集中しすぎて「抽出したものを覚える(特に単語)こと」を怠らないように注意する。抽出したものを覚えないとスコアが上がっていかない。

【STEP5】:あとは、下記のような**自分が苦手なパートに特化した問題集**に取り組むか、本番を想定して『**公式問題集**』に1冊ずつ取り組んでいくのがおすすめ。

※『公式問題集』はどれも質が高いので任意のものでOKです。



## <自信をつけたい方へ>

多解きで使う『精選模試』は本番よりもやや難しめです。

つまり「高地トレーニング」に取り組んでいただいているイメージですので、「なかなか正解数が上がらない…」と感じても「模試を解き、抽出し、それを覚えること」を継続している限りは、水面下でしっかりと力がついてきています。

ただ、その事実を確認して少しでも自信をつけたいという方もおられると思います。

その場合は、ぜひ以下の模試を手に入れて解いてみてください。600点を目指す人向けの模試なのですが、TOEICっぽさは残しつつも単語レベルがうまく調整されている良模試です。これを解いてみると「あれっ、解ける」という感覚が得られて、自信がつくはずですよ。

